

「原爆と戦争展」運動10年の記録

被爆市民、戦争体験者が伝える広島・長崎・沖縄・戦地の真実と日本の進路

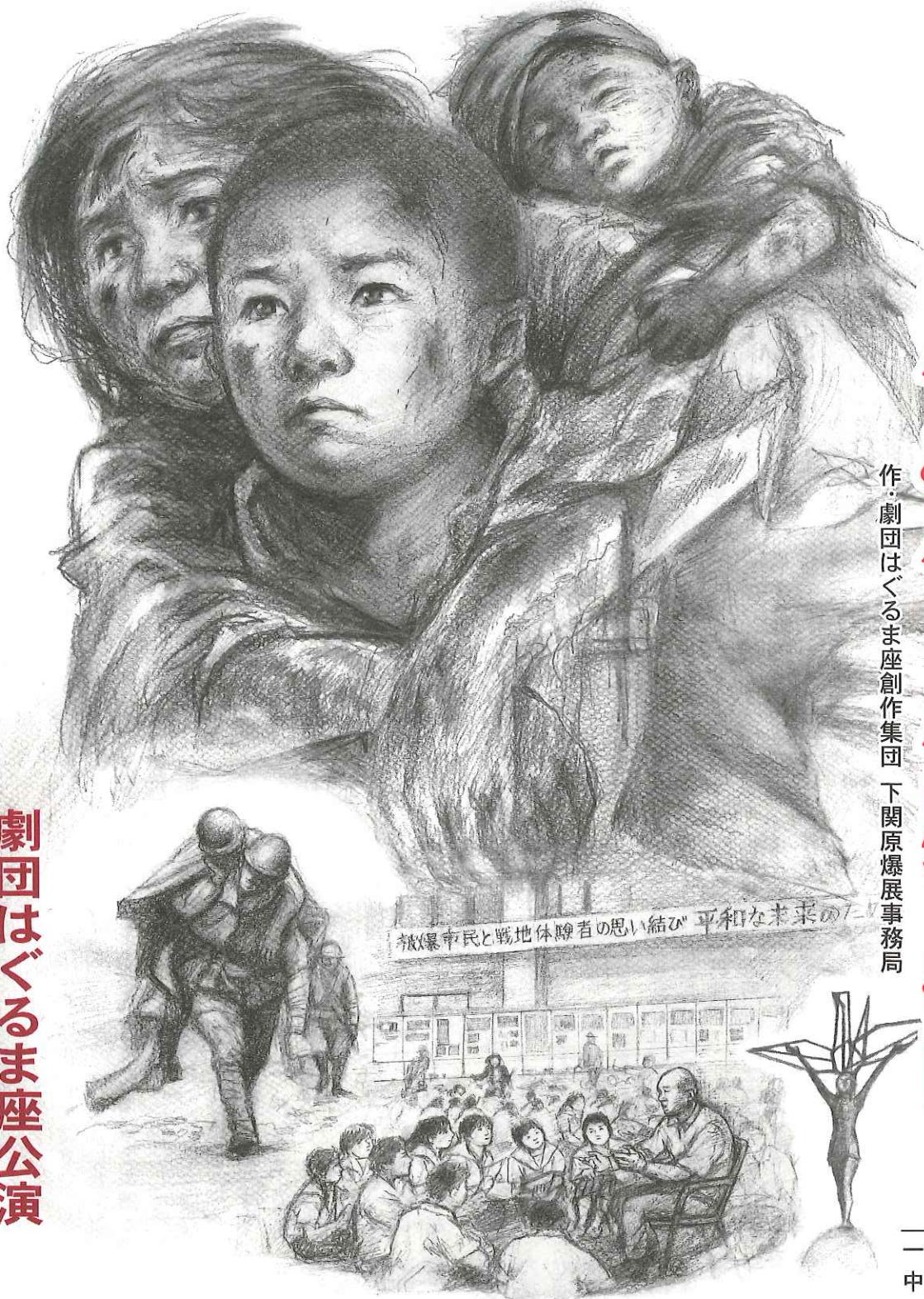
日本の現状をもたらしした第二次大戦の真実を伝える

# 峠三吉 原爆展物語

二幕六場

作・劇団はぐるま座創作集団 下関原爆展事務局

劇団はぐるま座公演



	前売券	当日券
一般	2500円	3000円
中高生	1000円	1500円
小学生	500円	800円

(全会場共通券)

'12 2月1日(水) 開場 午後6:00 開演 午後6:30

1/29(日) 開演 午後2:00  
新富町文化会館大ホール  
でもご覧になれます。

## 宮崎市民プラザ オルブライトホール

TEL 0985-24-1008

主催 『峠三吉 原爆展物語』 宮崎市公演実行委員会

後援 宮崎市 宮崎市教育委員会 宮崎市社会福祉協議会 宮崎市自治会連合会 宮崎市老人クラブ連合会 宮崎市PTA協議会 宮崎市子ども会育成連絡協議会  
下関原爆被害者の会 「原爆と峠三吉の詩」原爆展を成功させる広島の会 「原爆と峠三吉の詩」原爆展を成功させる長崎の会 沖縄原爆展を成功させる会

前売券取扱所 ポンベルタ橋 西村楽器 宮交シティインフォメーション

連絡先 0985-47-8011(劇団はぐるま座宮崎事務所) 083-922-2589(劇団はぐるま座)



# 『峠三吉・原爆展物語——広島、長崎、沖縄、戦地の真実』



旧日銀原爆展会場で次々と語り出す参観者（1幕1場）

## ものがたり

一九九九年、下関から始まった「原爆と峠三吉の詩」原爆パネル展は、全国数千万所でおこなわれ、衝撃的な反響を呼び起こした。

このパネルは、広島原爆詩人・峠三吉の詩をベースに、原子雲の下にいた人々の側から、時間を追って、どんな体験をしたのか、どんな思いを抱いていたのか、なぜこんな目にあわなければならなかったのかを写真や絵、峠が編纂した小中高生の原爆詩集などで構成し、下関原爆展事務局によって作成された。

舞台は二〇〇一年秋、広島で初めて開催される旧日本銀行での「原爆と峠三吉の詩」広島原爆展の準備のためにキャラバン隊スタッフたちがチラシを持って市内を一

軒一軒まわったところから始まる。

「どうだった？」「手ごわいな。あのう、原爆について聞きたいのですが」といったとたん、「お前たちは禁か協か」と激しく問いつめられた。「広島で原爆と違って騒ぐ連中は原爆をメシの種にしている奴らだ」など、広島市民のなかには既存の運動への激しい嫌悪感が渦巻いていた。

だがスタッフたちは「断固として峠三吉の時期の精神でいくこと、加害責任の反省」などという勢力とは違い、アメリカの犯罪にはつきりした態度をとること、市民の意見を徹底的に学ぶ姿勢でいくこと」という立場で一致して入っていった。すると市民からはまるで古い友人があらわれたかのような歓迎を受けた。

全市民の協力のもとでおこなわれた旧日銀広島支店原爆展は、「広島のが本音を語り始めた日本は変わる」「広島の面目を一新させよう」と意気込み高く開幕。市

民たちからは、「初めて語れる場所に出会った」とこれまで胸に秘めてきた凄惨な被爆体験が激しく語られた。

以来一〇年間の原爆展運動は、瞬く間に全国に広がり、これまで語られなかった各地の空襲体験、県民の四人に一人と一〇万人もの日本兵が犠牲となった沖縄戦の体験、「祈り」が強いられてきた長崎市民の本当の声、また、特攻隊や中国大陸、南方などの戦地体験、そして戦後の苦勞などが堰を切ったようにほとぼり、あの戦争はなんであつたのか、敗戦後の日本はどんな社会なのか、厚く施された欺まんを引きはがし、広島、長崎、沖縄、戦地の真実を浮き彫りにしていった。

それは、再び戦争に向かうことを押しとどめ、平和で豊かな日本を建設する確かな力が、日本民族のなかにあることを確信させるものだった。このドラマは、その原爆展運動の記録である。

### 全国初演・下関、被爆地広島・長崎、沖縄公演アンケートから

▼原爆被害者、戦争体験者たちの体験談をテーマにこれほど戦争反対を訴える劇を見たことがありません（大変な勇気を感じました）。「市民の側からの運動」「若い世代に伝えないと死んでも死にきれない」というセリフが印象的でした。（七二歳・下関市・男性）

▼被爆地に生まれながら知らなかったことが多く、申し訳なきでいっぱいになりました。全国で空襲ですべてが焼き払われた、そして、それらは必要なことではなく、後の征服の為、基地を置く為と知った時は、本当にショックでした。今回それらの事を聞き、今一度、平和とは一体何なのかを考える機会とし、長崎の人間として戦争が二度と起こらぬように考えをしっかりと

持ち、真実を知っておきたいと思えます。（二八歳・長崎市・男性）

▼最後まであきらめずに行うことになにかが生まれる。そして、協力することによって小さいことが大きくなる、ということを感じました。僕も原爆、戦争などで亡くなった人たちの死をむだにせず、これから死ぬまでいろいろなことに役に立ちたい。（二二歳・長崎市、小学生男子）

▼黙っていても世は変わらない。声を出して団結して動けば大きな渦となる。被爆した広島、長崎、空襲の東京、大阪、沖縄等の生の市民、戦った軍人の声の様子がリアルに表現できており、戦争を知らないで教科書だけで知る歴史との違いがよく解る。今、沖縄の基地問題が騒がれており、日本の安全と平和をどう守るか、真剣に考えるよい教材となる劇だと感じる。たくさんの人たちが観て、考えていくためのよい

起爆剤となる演劇と実感した。真実を知り、人は目覚める。（六七歳、広島市、福祉施設勤務、男性）

▼幕開けから身の毛のよだつような場面に、たびたび「よくぞこれほどまでに」と感動で身が震える思いで観劇させていただきました。鳥肌の立つ思いでした。私は被爆者の一人として一言一言が胸に迫ってきました。ここまでよくぞ掘り下げ表現されたことに感謝の気持ちで一杯です。（七六歳、広島市、女性）

▼地域の戦争だけが強調される傾向があるなかで、戦争の決着も決まっていたのに全国至るところで大空襲があったということとを知らせることは大変意義のあることだ。沖縄のキャラバン隊の場面で沖縄の人の考え方が述べられていたが、全県民皆の考え。（七一歳・那覇市・男性）



戦場で兵士たちが語る (2幕2場)

▼原爆と戦争の真実を追求しようとする態度に迫力を感じた。原爆、沖縄戦、東京空襲など別別に見られていたもののなかに、共通した真実を発見していく過程は素晴らしい。（沖縄・無記名）

▼日本は変わらなければいけない！「日